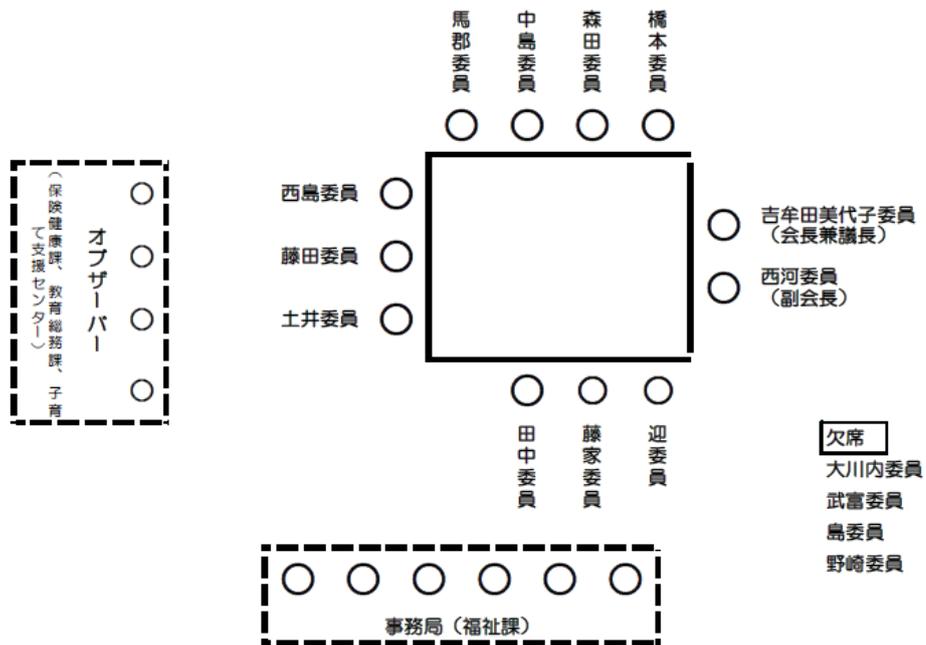


令和元年度第2回鹿島市子ども・子育て会議支援事業計画 および子ども子育て支援事業計画策定委員会（議事録）

開催日：令和元年9月25日（水）10:00～11:15

場 所：新世紀センター 2階 会議室



1. 開会

寺岡福祉課長補佐 司会進行

2. あいさつ

染川福祉課長

「前回の会議では次期計画の策定趣旨やニーズ調査の集約結果について貴重な意見を頂いた。本日は次期計画の案についてご審議いただきたい。」

3. 協議

※会議進行は前回に引続き、吉牟田委員が会長（議長）、西河委員が副会長

(1)前回の会議開催における指摘事項等について

事務局 片渕より説明

- ・ニーズ調査の際の自由意見について、各担当部署からの見解を照会。

→ 質疑なし。

(2)第二期鹿島市子ども・子育て支援事業計画(案)について

事務局 片渕より説明

Q 放課後児童クラブの調査結果を今度どういう方向に利用するのか。

クラブ数を増やすことでどうしたいのか。(馬郡委員)

A 現在直営で16クラブ運営している。保護者が就労している世帯が増え、放課後に自宅で児童が一人で過ごすことができるか不安に感じている世帯もある。その不安を解消したい。昨年度は待機児童が発生していた。今年度、待機児童はいないが、確保できる受け皿をしっかりと整備したい(施設面積、支援員確保)。

● クラブに子どもが2人通っている。一人は5年生。資料を見ると、5年生以上が利用している学校は少ない。地域の状況が影響していると思われるが、自宅が遠方にある家庭は何年生であっても心配(不審者など)。高学年でも利用ができることはとても安心できる。(土井委員)

Q 北鹿島小学校のクラブしか知らないが、他の学校は学校敷地内にクラブがあるのか。(馬郡委員)

A 市内では北鹿島小学校のみ学校敷地外でクラブを実施している。児童の安全確保の為に学校敷地内に設置することがベストだと考えている。北鹿島小学校は今年度施設整備を行い、学校敷地内にクラブを新設予定。

Q 北鹿島小学校で野球を教えている。鹿島小学校では野球部が練習しているときにクラブ児童が外遊びをしており、危険な場面が多くあると聞いている。野球を指導するものとして安全面には十分配慮しているがそれでも事故が起こる可能性がある。児童の安全安心を最優先にお互いに今後検討していかななくてはならないと考える。(馬郡委員)

A 社会体育を実施している指導者と話しをするなど、児童の安全安心確保のための打開策を検討しなくてはならないと考える。

鹿島小学校については野球部監督と話をした。市民体育館側からバッティングを行われており、横田堤側にある遊具でクラブ児童が遊んでいる。支援員にはボールが届かないような場所で遊ぶよう周知した。常にボールが飛んでくる状況ではなく、フリーバッティングが始まるのが16時45分くらいから。クラブ児童の外遊びが17時までくらいなので、この15分間は特に気をつけるよう支援員に伝えている。また、クラブでは市民体育館も借用している。

Q 子育て総合相談センターでは関係者が集まって行う会議があるのか。
(吉牟田議長)

A 関係者が集まり、定期的に会議を行っている。その場で、支援を要する方、支援の方向性を決めている。また、会議の場でなくとも常に情報交換、共有を図っている。(オブザーバー：保険健康課 中島)

● 年長児と1歳になる双子の育児をしている。自宅では祖父母が育児に協力してくれている。外に出ることに不安を感じていたが、恵まれている環境だと感じている。子育て支援センターの利用や、エイブルでの赤ちゃん相談でもよく応じてくれている。ファミサポも以前は名前だけ知っているくらい。どんな人に支援を受けるのか不安だったが、サポーターとの交流会を案内され、実際に話ができて良かった。赤ちゃん相談も利用している。子育てに関する情報をよく発信してもらっている。(藤田委員)

● 「P69.2(3)教育・保育の質の向上」に幼児期までに身に着けたい10の姿の一部が記載されている。ここに記載されていることは切れ目のない支援にとっても重要。一人ひとりの記録をずっとつけていき、小学校入学時に情報提供を行う。結果ではなく、プロセスが大事。ずっと引き継いでいかななくてはならない情報(18歳になるまで)。命のバトンとなる。(吉牟田議長)

- 先ほどの内容に加えて。一年生はうまくしゃべることができない。相手に伝えることができず、学校側も苦しい。就学時には幼保小連携が何回もある。「育ちの中でどんな環境だったか」これは学校が必要とするペーパーでは分からない。変わっていくのは自立していく3～4年生であり。(田中委員)

- Q 1、2年生の時は先生と密な関係であったが、4～5年生以上になると、いじめが徐々にでてくる。クラス崩壊に至ったということも聞いている。高学年になると、先生に相談しても、諦めに入っている保護者がいる。不登校になっている子どもも何人も見た。こういう時に誰に相談すればよいのか。保護者は不安に思っている。学校からはプリントでカウンセリングの案内が来るが。一人ひとりが相談しても解決に至らないこともあると感じる。(土井委員)

- A カウンセラーは学校に常駐しているわけではない。そういった時は保健室の先生を頼ってほしい。また、こちらも常駐ではないがスクールソーシャルワーカーという先生もいるのでこちらも頼ってみてはどうか。児童自らは担任の先生には相談しづらいことがあるかもしれない。そういった時は評価と関係ない先生(図書室の先生など)に上手く相談してほしい。(田中委員)

- 乳幼児期の愛着形成が出来ていなかったら、大人になって犯罪が多くなってくる。また日常の能力も問題になってくる。そうならないよう、子育て支援には量と質のバランスが大事と感じる(吉牟田議長)。

- Q P44.に障がいの早期発見について記載されている。普段の生活の中で、自分の子どもは兄弟児と比べることがほとんど。障がいに気付けないことも多く、障がいについて相談することもとても勇気がいる。早期発見につながるようにチェックリストを作成してみてもうだろうか。(西島委員)

- A 鹿島市には障害者福祉計画があり、その策定時にも同様の意見があった。昨年をそこで、チェックリストとまでとはいかないが、同様のものをパンフレットとして保育所等を通じて年中児保護者へ配布している。なぜ年中児を対象にしたかという、年少児は3歳半健診時に、年長児は就学前健診時にアドバイスを受けることからできるため、隙間無い配慮が出来るよう配布したところ。今後チェックリストのあり方については担当係との協議・検討していきたい。

(3)その他

事務局より

- ・今後のスケジュールは 11 月に第 3 回の会議開催を予定。
- ・10/27 に子育て支援センターでのイベント案内

～ 吉牟田会長、西河副会長は降壇 ～

4. 閉会

※次回開催は 令和元年 11 月 15 日（金）14:00～
保健センター内 いきいきルーム にて開催予定